



広重版画より 三島 朝霧

第2371回例会

2023.12.7晴

司 会 南木一仁君

国歌斉唱 四つのテスト

ロータリーソング 「奉仕の理想」
指揮 千葉慎二君

出席報告

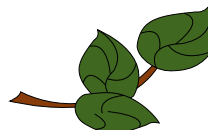
	出席総数	出席率	メー ッ ク ク ラ ブ	修 出 席 正 率
前々回	28/47	59.57%	31/47	65.96%
今回	43/51	84.31%	会員総数	53名

欠席者 芦川君、加藤君、窪田君、酒井君、須田君、
諏訪部君、藤江君、古屋君

会長挨拶 会長 平出利之君

先月の11日(土)に、伊東西ロータリークラブ45周年記念式典に赤池幹事と行ってきました。ひと通りのセレモニーが終わった後、熱海市観光課の職員の講演がありました。講演の内容は「何故熱海の景気がV字回復したのか」という話でした。結論は、メディアを呼んで、テレビに熱海の温泉や飲食店や地の利をPRしたそうです。三島市内にも撮影している光景をよく目にし、テレビでもよく放映されました。ただ、この熱海の職員は「熱海より伊東の方がよっぽど住みやすい所です。」とハッキリ言っていました。それは「熱海は東京と同じでマンションが立ち並んでおり、それに加えて熱海は坂ばかりです。伊東の方が住みやすい所です。」とおっしゃっていました。しかし住み良いと言っても、伊東駅においたら駅前は閑散としていますし、土曜日なのにシャッターは閉まっていますので、もう少し町作りに力を注いだ方がいいのではと思いました。

それから、伊東西ロータリークラブも台湾の台北市のロータリークラブと姉妹提携をしております。懇親会の席に29名の方が台湾から来ておりました。



幹事報告

幹事 赤池克斗君

- ①本日の例会は年次総会、クラブ協議会となっております。各委員長の皆様宜しくお願いします。
- ②次回例会は12月14日(木)18:30より呉竹で、国際奉仕委員会花房委員長より台湾苗栗交換中学生、台湾苗栗RC周年例会渡航についてお話いただきます。
- ③1月10日の4クラブ合同新年例会ですが、今年度は会員の会費負担はありません。

クラブ協議会

SAA

小塚英樹君

SAAの委員長の小塚です。よろしくお願ひいたします。

7月から始まり半期経った時点での活動状況といたしまして、例会の準備などについては委員会の皆様に早く来ていただき、例会30分前にはバッチリ準備していただいている状況で、皆様さすが優秀な方たちばかりで感謝感謝で助かっております。

もう1点、今期から私語が多いとの事で、後方座席にSAA委員を監督員として配置する方針でしたが、SAA委員が全員出席出来ず、監督員としての役目を果たせておりませんでした。まだまだ改善はされていないので、残り半期、気を引き締めて頑張って参りたいと思います。

例会の進行におきましては、ロータリーソングの時、CDデッキ状況が悪く、曲が流れなかったり、途中で途切れてしまったり、不具合が発生し申し訳ありませんでした。事前にCDの掃除、デッキの仕様確認をしてスムーズに進行できるよう周知いたします。

会員増強維持委員会

委員長 木村安紀夫君

- (1)7月11日 維持増強委員会 第1回目 打合せ会議開催
- (2)7月29日 国際ロータリー2620地区会員増強セミナーに平出会長、木村の2名出席、クラブ間で意見交換を図った
- (3)8月10日 和田由貴美さん、増田厚子さんの2名新会員入会
- (4)11月8日 伊豆慶友病院 相原事務長さんに入会打診 平出会長、赤池、木村で会食 好印象であったが、その後仕事の関係で、北陸に長期出張が決まり、入会は延期となった
- (5)その他、メンバーのご協力を頂き、新会員獲得に向けて取り組み中ですが、近々入会の予定は無く、若い入会希望者は経営トップの了解を取り付けるまでにもう少し猶予が必要である
- (6)一方、会員の横溝氏が病気の為退会となっております 現在在籍は53名となっております、昨年度より1名増となっております。上期のスタートは皆様のご協力により待望の女性会員2名が入会され順風満帆でありましたが、その後2世会員の獲得や青年会議所や文化交流などの会合を通じての会員獲得には至っておりません。皆様の情報を再度集め、委員会で検討、会員獲得に向けて努力してまいりますので、何卒ご協力お願い致します。

クラブ広報委員会

委員長 町野 暉君

前期は例会の休会もなく順調に進みました、週報に関してみなさんのご協力を頂き基本的に週報掲載資料を速やかに事務局に提出して毎週発行する事ができました事は、みなさんに感謝致します。

酒田東ロータリークラブ訪問や家族バーベキュー大会、楽寿園国際交流会など行事があり、週報の記事はたくさんありました。

現在、前田博利さん、秋山さんと三島西ロータリーの設立の経緯について、関本照文さんに聞きながら三島西ロータリー誕生の流れを文字として、残す作業を始めています。11月6日(月)一回目として、関本照文さんに取材して三島西ロータリーの設立の経緯に関して教えて頂きました。2回目は12月以後、関本照文さんに再度取材してまとめたいと考えています。また、苗栗ロータリーとの関係についても、関本照文さんに取材してまとめる予定です。

また、ソーシャルメディアを活用しながらロータリー活動を各方面で紹介できるよう考えています。

後期も前期以上にロータリーに関する事項を載せていきたいと思ひます。

クラブ管理運営委員会

委員長 矢野敏夫君

今年度上半期のプログラムは、新型コロナウイルス感染症の影響で10月15日の見晴フェスティバルが中止になった以外は、ほぼ3年ぶりに通常の例会ができました。また卓話者の変更もなく予定通りスムーズに卓話が出来ました。

下半期のプログラムは今のところ1月、2月の苗栗研修中学生受け入れに伴い若干の変更が考えられます。更に卓話予定者には事前に「卓話のご連絡」という連絡文を配り、卓話日についての確認を行っています。

上半期の出席率については以下の通りです。

前期修正出席率

7月	89.31%	8月	89.88%
9月	85.59%	10月	78.63%
平均	85.85%		

これから下半期にかけて変更があるかもしれませんが、プログラムのスムーズな進行、特に卓話者に変更がある場合の適切な対応、出席率の向上等に努めてまいりますので、何卒皆様の御協力をお願いいたします。

親睦活動委員会 委員長 栗原達治君

活動報告

テーブル会への補助

10月1日(日)家族親睦例会BBQ (例会日、例会場変更)

会員30名 家族25名の参加 うち子ども6名参加

今後の予定

12月21日(木)クリスマス忘年家族例会(例会時間・例会場変更) 現在大人65名子供13名参加予定

1月10日(水)4クラブ合同新年会(ホスト:三島RC)

参加者募集中

5月17日(金)せせらぎ三島RC35周年創立記念式典

6月27日(木)サヨナラ例会(例会時間・例会場変更)

テーブル会 年4回 2回終了

夜間例会に飲み物の提供 1回終了

上半期の反省

男性会員のみでスタートしましたが、8月より女性会員二人を迎え、受付も華やかになってきました。

今後は、お二人の活躍が期待できると思います。

ロータリー情報委員会 委員長 西本和夫君

〈活動報告〉

10月15日の地区大会に皆様と参加しました。

本日、次年度の理事・役員を選出と発表です。

次々年度会長は藤江康儀さんです。

現在2名の新会員がありますが後2名程度の入会者を希望しています。

会員増強委員会の皆様に期待しています。

3月～4月の間に勉強会、懇親会を会長・幹事と共に開催する予定です。

国際奉仕委員会 委員長 花房孝光君

4年ぶりに復活する台湾中学生交換事業が令和6年1月22日～28日まで6名の受け入れが決定し、その準備のために活動しています。

また、3月9日の苗栗ロータリー周年事業への出席者の確認、行程作りも並行して準備に入っています。

皆様にご協力いただく事が増えてくると思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

職業・社会奉仕委員会 委員長 秋山恭亮君

〈活動報告〉

①三島3クラブ合同 ポリオ根絶 募金活動

日時 10月21日(土)13:00～15:30 参加人数 12人

主管RCはせせらぎ三島RC、皆様のご協力で無事開催しました。来年度の主幹は三島西RCです。

②楽寿園北口 清掃活動

日時 11月5日(日)10:30～ 参加人数 28人

楽寿園の北口の落ち葉掃除を実施しました。清掃用具の寄付も行いました。併せて開催していた三島市国際交流協会のオータムフェアへの参加もしました。

③2620地区静岡第一グループ 合同奉仕事業 子ども食堂へのお米寄贈

日時 11月28日(火)11:00 贈呈式 (三島市社会福祉会館)

参加者 鈴木副会長 秋山職業社会奉仕委員長

「伊豆のRCは一つ」の合言葉のもと、米山ガバナー補佐の主導でお米の寄付を行いました。三島市には社会福祉協議会を窓口、子ども食堂を配布者として、3kgのお米190袋を年末に配布します。その贈呈式をとり行い、三島市からは豊岡市長、中村社会福祉協議長が出席されました。2620地区からは米山ガバナー補佐他、三島3クラブの会長、社会奉仕委員長などが出席しました。お米の贈呈のほか、市長との意見交換なども行いました。清水町には12月15日(金)11:00より贈呈式を予定しています。

今年度の予定

・(株)BRICSさまの工場見学を予定しております。

(日時未定)

・三島西ロータリークラブ記録アーカイブ事業に取り組みます。(広報委員会との合同事業)

ロータリー財団米山委員会 委員長 柴崎恵子君

ロータリー財団米山委員会への寄付ご協力ありがとうございました。

1、ロータリー財団への寄付金 \$ 2900

2、米山奨学会への支援金 ¥230000

3、令和5年9月7日ロータリー財団より地区補助金として¥270,000入金いたしました。2620地区全クラブ地区補助金が1割カットされました。

地区補助金配分基準は

51名以上70名以下—300,000

会員増強委員会の皆様に感謝いたします。

年次総会

次年度理事役員承認

選考委員長の西本和夫君より、以下の通り次年度理事・役員候補者が発表され、承認されました。

理事 鈴木正二(次年度会長)

藤江康儀(次々年度会長)

加藤憲勝(次年度幹事) 古屋英将(会計)

平出利之 岩崎健司 仲田崇浩 柴崎恵子

佐野宏三 渡邊真生

役員 南木一仁

スマイルボックス

- ◆ 仲田君、11月11日三島スルガ会ゴルフコンペにおきまして優勝させていただきました。ネット55, 17アンダーの快挙です。これも日頃のロータリー活動の賜物と、同伴プレーヤーの玄角先輩のご指導のおかげと感謝しております。ありがとうございました。
- ◆ 室伏君、先日のテーブル会、みしまプラザホテル割烹菱屋で行いました。持ち込みの飲物がたくさん出ましたので、残金が大きく出ました。
- ◆ Dテーブル、11月27日に松韻にてテーブル会を開催しました。参加メンバーで親睦を深めることができました。残金をスマイルいたします。
- ◆ Fテーブル、11月16日、毎日牧場さまでテーブル会を開催しました。とても楽しく料理もおいしかったです。ありがとうございました。
- ◆ 千葉君、花房年度の年次報告書が配られました。修正出席率、上期89.80%、下期89.94%、年間89.92%でした。上期・下期ともあと1名ずつメークアップ戴ければともに90%をクリアできていました。申し訳ありません。本日早退します。
- ◆ 清水君、申し訳ございませんが早退させていただきます。
- ◆ ゴルフ同好会、第3回平出年度ゴルフコンペを11月19日(日)伊豆大仁カントリークラブにて開催しました。優勝花房さん、準優勝 仲田さん、3位 森崎さんでした。次回第4回は、12月10日(日)沼津ゴルフクラブにて開催します。

ROTARY NEWS

RI会長メッセージ

私は、12月にドバイ(アラブ首長国連邦)で開催される国連気候変動枠組条約第28回締約国会議(COP28)に出席します。そこで、気候とメンタルヘルスという二つの世界的な危機のつながりについて話す予定です。世界保健機関(WHO)が指摘しているように、気候変動は、家や生活の混乱など、精神衛生上の問題のリスク要因を悪化させると言われています。災害による精神的な苦痛により、回復と立ち直りが難しくなります。ロータリーのパートナーであるシェルターボックスは、国際的な災害救援慈善団体であり、緊急避難所、必需品、技術サポートを提供し、約100カ国で250万人以上の避難民を支援してきました。今月のメッセージでは、シェルターボックスCEOのサンジ・スリカンサンさんのお話を紹介したいと思います。スリカンサンさんは、災害を表す言葉を選ぶことが重要であると説明しています

—ゴードン・マッキナリー

「自然」災害という用語は、熱帯暴風雨、洪水、地震、火山噴火を表すために長い間使われてきましたが、現在では、この用語を急速に変えていく必要があります。「自然」というと無害に聞こえるかもしれませんが、私たちは必ずしもこの用語を正しく使ってきたわけではありません。被災地での活動を通じて学んだのは、この用語が、こうした甚大な被害は防ぎようがないものだという危険な迷信を作りだしてしまっているということです。このような誤解を招く有害な考えは、支援を必要とする人びとを助けるための行動の欠如につながる可能性があります。つまり、私たちが使用する言葉は重要であるということです。災害を「自然」として見ると、自然と人間の行動の複雑な相互作用や、それが世界中の地域社会にどのような影響を与えるかについての認識が難しくなってしまいます。

地震、津波、火山噴火、強烈な嵐、干ばつ、洪水は地球における自然なプロセスとして発生します。しかし、これらの出来事が人や環境にどのような影響を与えるかによって、「災害」であるかどうかが決まります。この場合の「災害」とは、人びとが住む場所、家の種類、政情不安、弱い立場にある人たちを守るための積極的な措置の欠如といった人間的な要素によって影響を受ける結果を指します。つまり、災害とはリソースや権力へのアクセスにおける体系的な不平等の結果だということです。私たちがどこに住み、どれだけのお金を持っているかが、しばしば回復力を左右します。最も影響を受けているのは、貧困の中で暮らしている人びとであり、自らを守る手段がほとんどなく、次の出来事に耐えるための手段もほとんどありません。

これらの出来事を「自然」なものとして見なすことで、私たちは弱い立場にある地域社会を守るための積極的な措置の必要性を弱め、疎外された恵まれない地域社会に大きな影響を与えている社会的、経済的、政治的な不安といった根底にある問題を覆い隠してしまうのです。私たちのチームは、不平等、貧困、都市化、森林破壊、気候危機などの問題がどのように地域社会を脆弱化しているかを目の当たりにしています。

シェルターボックスでは、単に「災害」と表現する場合もあれば、極端な天気、地震、津波、火山噴火をより具体的に表現する場合もあります。これまでのやり方をやめて、なぜ人びとが甚大な被害を被っているかを正しく反映する言葉の使用を心掛けていただくことを皆さまに強くお願いいたします。そうすることで初めて、脆弱性の根底にある原因に取り組み、被災した地域社会を守るために必要な投資、リソース、積極的な措置を講じて、すべての人にとってより公正で公平な未来に向けて取り組む道が開かれます。「災害」は自然のものではありません。「自然」という表現はやめましょう。

サンジ・スリカンサン シェルターボックスCEO

(週報担当: 町野 暉)